

卒業時コンピテンス

琉球大学医学部医学科は、卒業時に医学生が身につける能力として、「卒業時コンピテンス（7領域）」及び「卒業時コンピテンス（51項目）」を規定しています。

対象	医学生	
項目区分	大項目	小項目
	I. プロフェッショナリズム	<p>医師として社会に対する責任を果たすために必要な倫理観、社会性、生涯にわたる自己研鑽を怠らない姿勢を身につけている。さらに、法令を遵守し、適切な対人関係を構築しながら、利他主義、自由平等、寛容平和の精神をもって誠実に医療にあたることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師として必要な教養、倫理観、社会性、生涯にわたる自己研鑽ならびに自己評価を怠らない姿勢を身につけ、行動できる。 2. 医師の職業倫理に基づいて、人間の尊厳を尊重し、患者の福利を優先し、個人と社会のウェルビーイングを実現するように行動ができる。 3. インフォームドコンセント及びシェアードディシジョンメイキングを理解し、行動できる。 4. 医師として個人情報保護の重要性を理解し、守秘義務を果たすことができる。 5. 周囲の人々（患者、その家族、同僚）に対し、敬意を持って接することができる。 6. チーム医療における医師及び多職種医療スタッフの役割を理解して行動することができる。 7. 医師として適切な服装、言葉遣い、振る舞いができ、患者やその家族に対して適切に接することができる。 8. 医師法をはじめ、各種法令を理解し遵守することができる。 9. 利益相反について理解し、職業上生じる利害に正しく対処できる。 10. 多様な背景を持つ人々に対し、その違いを尊重しながら、差別意識を持たずに接することができる。
	II. 医学知識	<p>人々の健康で心豊かな長寿を目指す医療を支えるため、以下の基礎・臨床・社会医学・行動科学・倫理などに関する知識を習得し、それらを医療の現場で応用できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の正常な構造と機能について説明できる。 2. 人体の発達、成長、加齢、死について説明できる。 3. 疾病の機序と病態について説明できる。 4. 疾病を系統的ならびに臓器横断的に理解し、医療に応用できる。 5. 疾病の疫学と予防について理解し、応用できる。 6. 行動科学に関する知識と理論を幅広く医療に応用出来る。 7. 生命倫理・研究倫理・臨床倫理について説明できる。 8. 医療経済について説明できる。 9. 保健・医療・福祉制度について説明できる。
	III. 医療の実践	<p>患者個人の人格・人間性を尊重した上で、Evidence-based Medicine (EBM) 及びNarrative-based Medicine (NBM) に基づいた個別の疾患に対する医療を実践することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (カルテ・問診・紹介状を通して) 病歴をとることができる。 2. 基本的な身体所見をとることができる。 3. 適切な検査を挙げ、結果の解釈ができる。 4. 身体所見・検査結果より診断することができる。 5. 標準的な治療を考慮できる。 6. 患者の背景、価値観や意向を取り入れた治療を考慮できる。 7. 感染対策と清潔操作を理解し、実践できる。 8. 指導医のもとに基本的な手技や処置を実践できる（心肺蘇生や救命措置を含む）。 9. 指導医のもとに診療録を適切に記録できる。 10. 討論に参加し、プレゼンテーションができる。 11. 医療安全について理解し、応用できる。 12. ICT等を活用して、医療に必要な正確な情報を得ることができる。
	IV. コミュニケーション能力	<p>患者と医師の良好な関係を築くため、自らとは異なった思考・感情・立場の他者に共感を示し円滑なコミュニケーションを実践できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他者の感情に共感でき、思考を理解することができる。（心理的要因等） 2. 他者の背景・問題点を指摘・把握できる。 3. 相互の社会的立場に配慮できる。（共感的立場） 4. 相手の話を聞き、事実や自分の意見を相手にわかるように述べるることができる。
	V. 地域医療への貢献	<p>地域医療の現状および社会資源に関する知識を習得している。地域特性・状況に応じた医療を実践し、地域医療に貢献する姿勢を身につけている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療連携のしくみ（医療制度と保険制度）に基づいて、地域医療を考慮できる。 2. 島嶼環境（医師不足・偏在）を特長とする沖縄県の地域医療システムを理解した医療を考慮できる。 3. 限られた資源を活用した訪問診療やかかりつけ医制度を理解した医療を考慮できる。 4. 福祉活動、ボランティア活動、災害医療に参画できる。 5. 包括医療・ケアを理解し、それに基づいた医療を考慮できる。
	VI. 国際性	<p>グローバルな視点で疾病の臨床、研究の動向を把握し、海外の医療・研究機関と交流できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の疾病の動向や医療保健問題のトピックスについて説明できる。 2. 医療に必要な最低限の英語力を身につけ診療や研究に応用できる。 3. 海外の大学との積極的な交流を通して異文化を理解できる。 4. 国際平和について考え、その構築に貢献しようとする姿勢をもつことができる。
	VII. 科学的探究	<p>基礎、臨床、社会医学領域においてその研究の意義を理解し、最新の技術を活用して科学的情報の入手および意見交換をおこない、研究倫理を遵守した立場で疑問点に対して解決するために論理的な思考ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の知識は限定的であることを意識できる。 2. 疑問点を解決する方法を具体化できる。 3. 適切なデータベースを検索し、必要な情報を得ることができる。 4. 科学的思考に基づいた討論ができる。 5. ICT等を医学およびそれに関連する領域の研究に活用できる。 6. 科学が事実に基づいた論理により構成されていることを理解し、研究・医療に応用できる。 7. 生命倫理・研究倫理・臨床倫理に配慮して研究を実践できる。